

パブコメ集計結果(GX ロケット)

1. 総数: 18 件

2. 賛否について:

○賛成: 17 件

○賛成だが施策の改善見直しの意見を含むもの: 0件

○反対: 1件

計 18 件

(賛否の考え方)

- ・主旨に賛成の文意を含むものは全て賛成に判定。
- ・「賛成だが施策の改善見直しの意見のあるもの」は基本的には賛成だが、施策の実施にあたっての改善、見直し方策について記述されているものを集計。

(参考)

①賛成

- ・ 研究開発予算の増額、体制強化を希望します。多様なロケット技術を有することは、独自のノウハウの蓄積をもたらすばかりか、衛星打ち上げ手段や運用の選択肢が広がることにもつながり、今後の宇宙開発推進のためには、極めて有意義であるから。
- ・ 積極的に推進すべきである。日本のロケット技術は近年急速に進歩してきており、これからは大型よりも中型のロケットで日本の技術をさらに推進することが重要になっている。小型の人工衛星の打ち上げが低価格でできるようになれば、世界中から衛星打ち上げの受注ができ、長期的にみれば十分にペイする計画である
- ・ LNG 推進系は将来の燃料を含むコストダウンにつながる可能性があること。また、宇宙空間での持ちが良い(液体水素・酸素だと長時間持たない)ことから、月面着陸などで有用である。GX 用で使われないにしても、一旦技術獲得に向け切りのいいところまでは開発すべき。その上で、次の LNG 推進系の開発に向け、目標の見直しをすべき。

②賛成だが施策の改善見直しの意見を含むもの

- ・ なし

③反対

- ・ 早期に中止することが望ましい。
 - (1) 日本には、ミュー系列の固体ロケットと、H ロケットの系譜があること。そこに第3の系譜として、GX ロケットの開発を行なう意義が見出せない。
 - (2) 現時点で、技術的問題がクリアできておらず、すでに当初予定から遅れながら、実現のめどが立っていないこと。開発計画そのものが安易すぎる。
 - (3) 商用利用として、顧客が見込めないこと。これこそ「無駄」である。
 - (4) すでに文科省の宇宙開発委員会などで、凍結や縮減の声が繰り返し上がりながら、さまざまな力学により、今日まで存続してきたこと。